

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線8号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	上下水道課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H24. 4 ~ H30. 3
	事業内容	地元要望によるもの。道路改良(拡幅・舗装)を行う。 (社会資本整備総合交付金:都市再生整備計画事業) L=140m W=6m 宅地部には側溝設置		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	8,392	13,632	32,116	0	0
		事業費等		千円	7,776	13,016	30,322	0	0
		財源内訳	国支出金	千円	1,492	9,093	14,742		
			県支出金	千円					
			地方債	千円	5,600	3,200	0		
			その他	千円					
		一般財源		千円	684	723	15,580		
		人件費		千円×人役	616	616	1,794	0	0
正規職員		千円×人役	6,160 × 0.10	6,160 × 0.10	5,968 × 0.30	5,968 ×	5,968 ×		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.01	402 ×	402 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	用地買収、物件補償を行った。 道路改良工事を実施した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				用地買収・物件補償	件	4	3	75.0	1
工事延長	m				146	146	100.0		
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	道路拡幅により、地域間交流が図られ、更に 利用者の安全性が向上した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるためA評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	スムーズに事業遂行できたため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	H29年度で事業完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	特になし		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	H29年度で事業完了
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	H29年度で事業完了
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線6号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~ H30. 3
	事業内容	通学路の安全対策事業によるもの。道路改良(ガードレール設置、道路拡幅、舗装)を行う。 L=249m W=10.5m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	27,187	4,694	66,894	0	0
		事業費等		千円	25,339	2,846	64,487	0	0
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円			58,000		
			その他	千円					
		一般財源		千円	25,339	2,846	6,487		
		人件費		千円×人役	1,848	1,848	2,407	0	0
正規職員		千円×人役	6,160 × 0.30	6,160 × 0.30	5,968 × 0.40	5,968 ×	5,968 ×		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.05	402 ×	402 ×		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	道路改良工事を実施した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				工事延長	m				249
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	道路拡幅、ガードレールの設置により、児童 や利用者の安全性が向上した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	スムーズに事業遂行できたため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	H29年度で事業完了

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	特になし		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	H29年度で事業完了
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			E. 事業統合・廃止の検討	H29年度で事業完了
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	やらなければならない事業であるが、その手法については、その都度、状況を考慮し再検討する必要がある。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	長期に亘るが事業は完了させなければならない。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	<p>担当者</p> <p>H29年度事業について、地権者交渉・警察協議等が長引き、測量設計業務の完了が年度を跨ぐこととなった。今後も、事業規模上、様々な調整事項が生じスムーズな事業進捗は困難であると思われるが、問題点を1つずつクリアして進めていきたい。</p>			
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 H29年度事業がH30年度へ繰越しとなった。様々な調整事項が生じ、スムーズには進捗しないが、与えられた予算内で少しずつでも事業を進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本事業は、工業団地内の通行の安全性・利便性向上と交差点の道路冠水対策として、重要な事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線5号線(若林)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課、上下水道課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26.4 ~ H33.3
	事業内容	若林1自治会より要望 道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金導入予定) L=450m W=12m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	6,232	0	42,320	40,294	33,294
		事業費等		千円	5,616	0	41,122	38,500	31,500
		財源内訳	国支出金	千円				13,200	12,000
			県支出金	千円					
			地方債	千円			37,000		
			その他	千円					
			一般財源	千円	5,616		4,122	25,300	19,500
		人件費		千円×人役	616	0	1,198	1,794	1,794
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.10	6,160 ×	5,968 × 0.20	5,968 × 0.30	5,968 × 0.30	
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.01	402 × 0.01	402 × 0.01		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 用地買収、物件補償を行った。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				用地買収	件				10
	物件補償	件				14	11	78.6	
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 物件補償が一部繰越しになったが、次年度 工事に入れる見通しがついた。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	ある程度、計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	次年度、工事施工にむけて地元や関係機関調整を事前に進めていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 一部、H29年度事業(物件補償)がH30年度へ繰越しとなった。事業規模は大きい、与えられた予算内で少しずつでも事業を進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	本事業は通学路安全対策として重要な事業であり、隣接する地権者の意向を確認しながら計画的に進めていく。
3次評価	町長	評価	今後の方向性	

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	二級幹線4号線(第一松原踏切)改良事業		(2) 新規・継続評価の別	継続	
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうらおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	こども教育課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H26. 4 ~ H32. 3
	事業内容	松原区より要望 踏切及び道路改良(拡幅、歩道設置)を行う。 通学路安全対策(社会資本整備総合交付金) L=130m W=8. 5m~10. 45m		
	前年度から改善した点	計画外の周辺道路工事の一部を開始した。(この工事はH30へ繰越しとなった。) (H29. 12補正予算対応)		

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	551	3,273	6,156	44,132	121,798
		事業費等		千円	243	2,657	4,958	42,930	120,000
		財源内訳	国支出金	千円			2,420	11,194	46,000
			県支出金	千円					
			地方債	千円				11,900	
			その他	千円					
			一般財源	千円	243	2,657	2,538	19,836	74,000
		人件費		千円×人役	308	616	1,198	1,202	1,798
		正規職員	千円×人役	6,160 × 0.05	6,160 × 0.10	5,968 × 0.20	5,968 × 0.20	5,968 × 0.30	
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.01	402 × 0.02	402 × 0.02		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
	用地買収、物件補償の契約を交わした。 道路詳細設計を実施した。 道路改良工事(一部区間)実施した。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				用地買収、物件補償契約	件			1	1	100.0
				道路詳細設計	m			130	130	100.0
	工事延長	m			120	120	100.0			
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度			
	用地買収、物件補償の完了が遅れた。これらは工事とともに平成30年度へ繰越しになったが、平成30年度事業へはスムーズに繋がるものとなった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)	
				用地買収、物件補償完了	件			1	0	0.0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	計画通りに進行しているため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	踏切部の拡幅がJRの事業計画次第であるため、事業進捗に注意を払う必要がある。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 トータル事業費が大きく、様々な調整事故が生じ、スムーズには進捗しないが、地元の期待も大きいので着実に進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本事業は通学路安全対策として、地域からの要望も強く継続していくべき重要な事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	潤島63号線新設事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H24. 4 ~
	事業内容	小山野木間道路整備に関する事業 JR側道として道路を新設する。 L=730m W=6.5m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	24,247	22,422	0	0	0
		事業費等		千円	22,399	20,574	0	0	0
		財源内訳	国支出金	千円			0		
			県支出金	千円			0		
			地方債	千円	20,100	18,500	0		
			その他	千円			0		
			一般財源	千円	2,299	2,074	0		
	人件費		千円×人役	1,848	1,848	0	0	0	
	正規職員	千円×人役	6,160 × 0.30	6,160 × 0.30	5,968 × 0.00	5,968 ×	5,968 ×		
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.00	402 ×	402 ×		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 C. 課題等解決のため再検討する必要がある	理由	反対地権者が1名存在するため、このままでは、事業完了はできない。 対策を練り直さないと現状打破は望めない。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	反対地権者の動向次第であるため。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	困難を極めている反対地権者への対応について、手法を変更することも考慮すべきか。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 地権者交渉を粘り強く継続すると共に、他の対応策も研究模索していく。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本路線は野木町と小山市を結ぶ重要な路線と位置付け、継続していくべき事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	野木54号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民、野木工業団地関連利用者	実施期間	H27. 4 ~
	事業内容	野木工業団地内道路の側溝蓋未設置箇所について、年次計画をたてて、すこしずつ改善していく。 L=1, 720m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	5,509	5,704	10,180	0	8,694
		事業費等		千円	4,277	4,472	8,986	0	7,500
		財源内訳	国支出金	千円				0	
			県支出金	千円				0	
			地方債	千円	3,800	4,000	8,000	0	
			その他	千円				0	
		一般財源		千円	477	472	986	0	7,500
		人件費		千円×人役	1,232	1,232	1,194	0	1,194
正規職員		千円×人役	6,160 × 0.20	6,160 × 0.20	5,968 × 0.20	5,968 × 0.00	5,968 × 0.20		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 蓋版据付工事を実施する。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				工事延長	m	133	133	100.0	180
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 蓋版据付により、利用者の安全性が向上した。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				交通事故件数	件	0	0		0

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	やらなければならない事業であるため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算措置上、長期に亘るが事業は完了させなければならない。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	<p>工事費の増額変更を鑑みると、今後の課題として、コンサルに設計を委託したほうが、トータルとして安価に事業が進められることもある。 事業実施箇所状況を見極める必要がある。</p>		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	年次計画をたてて、少しずつでも蓋版据付を実施していく。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	本事業は野木工業団地内の道路整備として、今後とも必要な事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	新4号国道アクセス道路整備事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	係長	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	野木町補助金等交付規則				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H20. 4 ~ H33. 3
	事業内容	野木町から古河市内を通して新4号国道へ接続する道路を建設し、町の活性化を図る。 この事業は、古河市と共に進める。国庫補助事業を導入し、単独費分1/2ずつ負担する。 L=2, 130m W=15m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	21,257	17,851	16,869	30,441	29,597
		事業費等		千円	20,641	17,235	16,272	29,844	29,000
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円	11,300	15,400	11,400	26,800	
			その他	千円					
		一般財源		千円	9,341	1,835	4,872	3,044	29,000
		人件費		千円×人役	616	616	597	597	597
正規職員		千円×人役	6,160 × 0.10	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.10		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 整備主体は古河市であるが、事業遂行にあたり、打合せ・関係機関協議等は行う。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)
				用地買収進捗率	%	90	85	94.4	100
		事業費ベース進捗率	%	50	48	96.0	70	55	78.6
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 少しずつではあるが、事業は進捗している。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度(%)	目標	実績	達成度(%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	一部反対地権者の動向次第、国庫補助金の付き具合に左右され、長期に及ぶ事業になる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	地域住民は懇願しているが、思うように事業が進まない。 改善点としては、長期事業になってしまうことの住民説明(いかに理解を求めらるか)の仕方である。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 止められない事業として、古河市も野木町も認識しているため、少しずつでも進めていきたい。
		2次評価	所属長	評価 C. 事業継続
	3次評価			町長

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	佐川野31号線他1路線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H28. 4 ~
	事業内容	佐川野墓地関連整備事業 側溝を整備し、地域の要望である排水対策を行いたい。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	5,206	5,792	0	0
		事業費等		千円	0	4,590	5,195	0	0
		財源内訳	国支出金	千円				0	0
			県支出金	千円				0	0
			地方債	千円				0	0
			その他	千円				0	0
		一般財源		千円		4,590	5,195	0	0
	人件費		千円×人役	0	616	597	0	0	
正規職員		千円×人役	6,160 ×	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.00	5,968 × 0.00		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	排水測量、詳細設計			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m			450	450
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	次年度以降の工程に進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	工事延長が長いので、分割して設計 → 工事と調整しながら進めていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地域の期待は大きいので、予算を確保し、順次進めていきたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	本事業は佐川野墓地関連整備事業として、着実に進めていくべき事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	市民農園内道路新設事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	産業課、未来開発課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H28. 4 ~ H31. 3
	事業内容	野木第二工業団地造成事業と関連がある。 市民農園内に道路を新設する。 L=80m W=8m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額	千円	0	2,074	792	7,507	0	
		事業費等	千円	0	1,458	195	6,910	0	
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源	千円		1,458	195	6,910		
		人件費	千円×人役	0	616	597	597	0	
正規職員		千円×人役	6,160 ×	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.00		
正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00			
その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×			

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	境界確認用書類作成に係る測量業務を行う。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m			80	80
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	次年度、次の工程に進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 B. 一部結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業としているが、整備方針が定まっていないため、不透明な部分もある。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 C. ニーズが減少している事業である	理由	一部の自治会住民から、道路整備の必要性は低いとの訴えがあり、ニーズは減少している事業であるといえる。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	財務省協議が困難を極めることが予想されるため、スムーズに手続きが進むように事務処理を進める。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	必要性が低くとも、野木第二工業団地造成に合わせた道路整備が求められているので、実施しなければならない事業である。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	本路線は市民農園に隣接し、また、第二工業団地へ通ずる道路であるが、近隣住宅地への配慮から歩行者用の道路として整備していく。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線5号線他(川西地区)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		継続
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	活力に満ちたのびゆくまち		課	都市整備課
	分野別目標	生命・財産を守るまちづくり		係	建設係
	施策分野	防災対策	(5) 主担当者区分	主任	
	施策	防災活動の支援	(6) 関連する課	総務課、産業課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例、農地法、水防法、災害対策基本法				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民及び川西地区住民	実施期間	H27. 4 ~
	事業内容	川西地区住民からの要望 3集落(本新田、下影、角新田)住民のために災害時の一時的な避難地や救援活動の支援拠点として、一級幹線5号線の道路改良を含め防災広場(関連施設)を整備する。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	773	4,515	4,205	11,194	31,198
		事業費等		千円	465	3,899	3,608	10,000	30,000
		財源内訳	国支出金	千円					
			県支出金	千円					
			地方債	千円					
			その他	千円					
		一般財源		千円	465	3,899	3,608	10,000	30,000
	人件費		千円×人役	308	616	597	1,194	1,198	
正規職員		千円×人役	6,160 × 0.05	6,160 × 0.10	5,968 × 0.10	5,968 × 0.20	5,968 × 0.20		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.01		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段 道路予備設計、水防拠点基本設計	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				道路予備設計	m				500
		水防拠点設計面積	m ²				6,641	6,641	100.0
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果 次年度の工程に進めることになった。	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
				目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業としているが、整備方針が定まっていないため、不透明な部分もある。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったためA評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備、水防拠点整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道及び災害避難地の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	国土交通省の協力により事業を進めているため、この手法で進めていきたい。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 C. 終了すべき(した)事務事業である	理由	地権者の合意は得られているので、予算さえ確保できれば事業は完了できる。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業のスムーズな進捗の鍵を握るのは、様々な関係機関調整である。よって、頻繁に連絡調整を図っていきたい。					
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>今後の方向性</td> </tr> <tr> <td>C. 事業継続</td> <td>事業費が大きく、なかなか一筋縄ではいかない事業であるが、引き続き事業年次計画に基づき進めていきたい。</td> </tr> </table>	評価	今後の方向性	C. 事業継続	事業費が大きく、なかなか一筋縄ではいかない事業であるが、引き続き事業年次計画に基づき進めていきたい。
	評価	今後の方向性					
	C. 事業継続	事業費が大きく、なかなか一筋縄ではいかない事業であるが、引き続き事業年次計画に基づき進めていきたい。					
2次評価	所属長	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>今後の方向性</td> </tr> <tr> <td>C. 事業継続</td> <td>本事業は国と連携して、着実に進めていくべき事業である。</td> </tr> </table>	評価	今後の方向性	C. 事業継続	本事業は国と連携して、着実に進めていくべき事業である。	
評価	今後の方向性						
C. 事業継続	本事業は国と連携して、着実に進めていくべき事業である。						
3次評価	町長	<table border="1"> <tr> <td>評価</td> <td>今後の方向性</td> </tr> </table>	評価	今後の方向性			
評価	今後の方向性						

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	潤島12号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	上下水道課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	住民要望(H27) 側溝を整備し、排水対策をする。 L=650m W=6m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	0	3,794	0	0
		事業費等		千円	0	0	3,197	0	0
		財源内訳	国支出金	千円				0	0
			県支出金	千円				0	0
			地方債	千円				0	0
			その他	千円				0	0
		一般財源		千円			3,197	0	0
	人件費		千円×人役	0	0	597	0	0	
正規職員		千円×人役	6,160 ×	6,160 ×	5,968 × 0.10	5,968 × 0.00	5,968 × 0.00		
正規職員時間外勤務		千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00		
その他職員		千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	現地測量を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m			650	650
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業が一時休止になっているため、再開までの地元への対応等を考えていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本事業は上下水道課の雨水排水対策事業と連携して、着実に進めていくべき事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業が一時休止になっているため、再開までの地元への対応等を考えていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本事業は市街地の安全でスムーズな交通のため、着実に進めていくべき事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	一級幹線1号線(右折レーン整備)改良事業		(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	土木技師	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課		
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	主要交差点(3ヶ所)に右折レーンを整備する。		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	0	5,565	0	11,697
		事業費等		千円	0	0	4,968	0	11,100
		財源内訳	国支出金	千円				0	
			県支出金	千円				0	
			地方債	千円				0	
			その他	千円				0	
			一般財源	千円			4,968	0	11,100
	人件費		千円×人役	0	0	597	0	597	
	正規職員	千円×人役	6,160 ×	6,160 ×	5,968 × 0.10	5,968 × 0.00	5,968 × 0.10		
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.00	402 × 0.00	402 × 0.00		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	基準点・現地測量を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m				1,050
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	何とか現道内で改良できないかを今後模索していきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価 C. 事業継続	今後の方向性 本事業は、県で整備を進めている都市計画道路小山野木線の開通に伴い交通量が増加するため、着実に進めていく事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性

平成30年度 野木町総合計画進行管理 兼 事務事業評価シート(平成29年度実績分)

1. 事業の位置づけ

(1) 事務事業名	中谷南赤塚3号線改良事業		(2) 新規・継続評価の別		新規
(3) 総合計画 施策体系 における 位置づけ	施策体系	施策分野別計画	(4) 担当 部署	部(局)	産業建設部
	基本目標	自然と共生したうるおいのあるまち		課	都市整備課
	分野別目標	快適で住みよいまちづくり		係	建設係
	施策分野	交通ネットワークの整備	(5) 主担当者区分	主事	
	施策	道路の整備	(6) 関連する課	生活環境課	
(7) 根拠法令・条例・規則 ・要綱等	道路法、町道路構造条例				

2. 事業内容・投入コスト

(1) 事業 内容	事業の対象になる相手方	すべての町民	実施期間	H29. 4 ~
	事業内容	住民要望(南赤塚環境整備事業) 道路改良(拡幅し、側溝を整備する。) L=360m W=6m		
	前年度から改善した点			

(2) 投入 コスト	会計	010 一般会計			予算科目	7 款	2 項	2 目	
	事業費	区分	単位	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (見込み)	平成31年度 (見込み)	
		コスト総額		千円	0	0	2,217	0	6,597
		事業費等		千円	0	0	1,620	0	6,000
		財源内訳	国支出金	千円				0	
			県支出金	千円				0	
			地方債	千円				0	
			その他	千円				0	
			一般財源	千円			1,620	0	6,000
	人件費		千円×人役	0	0	597	0	597	
	正規職員	千円×人役	6,160 ×	6,160 ×	5,968 × 0.10	5,968 ×	5,968 × 0.10		
	正規職員時間外勤務	千円×人役	402 ×	402 ×	402 × 0.00	402 ×	402 × 0.00		
	その他職員	千円×人役	×	×	×	×	×		

3. 活動指標・成果指標

(1) 活動 指標	事務・事業を実行するための手段	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	現地測量を実施する。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)
				測量延長	m				360
(2) 成果 指標	事務・事業を実行したことによる成果	指標名	単位	平成28年度			平成29年度		
	次年度以降、次の工程へ進めることになった。			目標	実績	達成度 (%)	目標	実績	達成度 (%)

4. 評価

(1) 必要性	総合計画の目標に結びつく事務・事業か	評価 A. 結びつく	理由	総合計画の「道路の整備」の考え方に則り、快適で住みよいまちづくりをするための事業として十分に効果が見込めるため、A評価とした。
	町民のニーズに即した事務・事業か	評価 A. ニーズが増大している事業である	理由	町民(利用者)のニーズに応えた事業であったため、A評価とした。
(2) 効率性	事務・事業の実施に係る民間活力利用の可能性はあるか	評価 B. 行政主体が望ましい	理由	一般道路整備は、収益性が無いものなので、行政主体でないといけないものである。
	類似事業との統合・連携や予算やコスト削減の可能性はあるか	評価 A. 現状が望ましい	理由	現状の手法が望ましいため。
(3) 公平性	事業の受益者に偏りがなく公平性保たれているか	評価 A. 保たれている	理由	不特定多数の人が利用するため、公平性は保たれている。
	事業の受益者負担割合は妥当か	評価 A. 妥当である	理由	公道の整備事業であるため妥当である。
(4) 総合評価	事業再検討の余地	評価 B. 再検討の余地はない	理由	手法は今のままで進めていくため。
	事業終了の可能性・終了条件の有無	評価 B. 条件を満たせば終了可能である	理由	予算さえ確保できれば、順次、事業は進めていける。

5. 今後の課題・方向性

(1) 改善点	担当者	事業が一時休止になっているため、再開までの地元への対応等を考えていきたい。		
(2) 評価・今後の方針	1次評価	担当係長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	地元の要望が非常に強く、町長指示により、H29年度に順番を早めてまで現地測量から着手した。このようなことから、一年でも早く事業を再開させたい。
	2次評価	所属長	評価	今後の方向性
			C. 事業継続	本事業は、南赤塚環境整備事業として、着実に進めていくべき事業である。
	3次評価	町長	評価	今後の方向性